

原事件：令和4年（モ）第40001号 保全異議申立事件

## 訴 状

2022年04月01日

東京地方裁判所民事部 御中

（送達場所）

電 話 ——

原 告

〒100-8977 東京都千代田区霞ヶ関1丁目1番1号

被 告 日本国

上記代表者法務大臣 古川 禎久（ふるかわ よしひさ）

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番1号

被 告 東京都

上記代表者東京都知事 小池 百合子（こいけ ゆりこ）

〒141-0031 東京都品川区西五反田2丁目28番5号

被 告 大宇宙ジャパン株式会社

上記代表者取締役社長 中山 国慶（なかやま こっけい）

司法不公正の確認請求事件

請求の賠償金額 （算定不能）

## 略称表記

略称は全て太い字で記述します。

### 1 法律

憲法	日本国憲法（昭和二十一年憲法）
刑法	刑法（明治四十年法律第四十五号）
民法	民法（明治二十九年法律第八十九号）
民訴法	民事訴訟法（平成八年法律第百九号）
行訴法	行政事件訴訟法（昭和三十七年法律第百三十九号）
入管法	出入国管理及び難民認定法（昭和二十六年政令第三百十九号）
裁判所法	裁判所法（昭和二十二年法律第五十九号）
裁弾法	裁判官弾劾法（昭和二十二年法律第百三十七号）
公務員法	国家公務員法（昭和二十二年法律第百二十号）
国賠法	国家賠償法（昭和二十二年法律第百二十五号）
公益通報法	公益通報者保護法（平成十六年法律第百二十二号）
労契法	労働契約法（平成十九年法律第百二十八号）
労審法	労働審判法（平成十六年法律第四十五号）
労基法	労働基準法（昭和二十二年法律第四十九号）

### 2 その他

大宇宙	大宇宙ジャパン株式会社
地方裁判所	東京地方裁判所
地方裁判官	東京地方裁判所第33部裁判官
高等裁判所	東京高等裁判所
高等裁判官	東京高等裁判所第14部裁判官
警察官	大崎警察署警察官
【原審】	大宇宙ジャパン株式会社申立の動産保全事件

歴史の事件番号（順位：新➡旧）：

特別抗告：令和４年（ラク）第１４１号 特別抗告提起事件（東京高等裁判所（第１４民事部） 石井 浩、菅原 忠行、塚原 聡、結果：却下）

抗告決定：令和４年（モ）第４０００１号 保全異議申立事件（東京地方裁判所（第３３部） 佐藤 卓 裁判官、結果：決定）

保全命令決定：令和３年（ヨ）第２１０６４号 動産の引渡断行仮処分命令申立事件（東京地方裁判所（第３３部） 伊藤 由紀子 裁判官、結果：決定）

事件申立：令和３年（ヨ）第３３６７号 動産仮処分命令申立事件（東京地方裁判所（第９部） 秋田 智子 裁判官）

#### 請求の趣旨

##### １ （主位の請求）

###### （１）日本国（東京地方裁判所）

ア **【原審】**の決定を取り消す。

イ 地方裁判所は 地方裁判官の不作为をさせない措置を講ぜよ、原告に対し、書面で謝罪する。

###### （２）大宇宙ジャパン株式会社

ア 原告の社員地位について大宇宙の解雇は無効である、復職する。

イ 大宇宙は 原告に対し、令和３年９月から毎月末日限りそれぞれ金４１６，６６７円及びこれらに対する各支払日の翌日から支払い済みまで年３％の割合による金員を支払え。

ウ **【原審】**の申立費用、命令決定、抗告決定、特別抗告を通じて、訴訟関連の各種費用は 全て大宇宙の負担とする。

###### （３）本件の訴訟費用は被告たちの負担とする。

## 2 (予備の請求)

(1) 日本国は その地方裁判官をして、原告が受ける半年ぐらいの精神的損害に対する慰謝料は令和3年12月から毎月末日限りそれぞれ金20万円を支払え。(令和4年4月月末まで計100万円)

(2) 東京都は その警察官らをして、原告に対する、原告が受ける半年以上の精神的損害に対する慰謝料は令和3年10月から毎月末日限りそれぞれ金20万円を支払え。(令和4年4月月末まで計140万円)

(3) 大宇宙は、その従業員らをして、原告に対する、原告が精神的苦痛を受ける言動をさせない措置を講ぜよ。原告が受ける半年以上の精神的損害に対する慰謝料は令和3年9月から毎月末日限りそれぞれ金100万円を支払え。(令和4年4月月末まで計800万円)

大宇宙は 被害者が2021年9月から 発生する医療費用を全額賠償すること。

(4) 訴訟費用は被告たちの負担とする。

## 3 仮執行宣言

との判決を求める。

### 請求の原因

#### 第1 大宇宙悪意解雇の違法性(基本事件)

##### 1 社員地位

【労契法第十六条】、【民法第五百四十条(解除権の行使)】により大宇宙は2022年4月1日まで 社長さんの「解除権の行使」の承認記録を提示しない。

原告は 今まで 退職手続きはサインしない、大宇宙の「正社員」の地位である。大宇宙は 全体社員にパソコンと社員証を支給する。ですから 原告

は パソコンと社員証の返却が 必要ではない。

**【原審】**の「特別抗告申立書」の「第2 申立ての理由」の2

**【原審】**の「即時抗告状」の「第3 即時抗告の理由」の1

## 2 名誉毀損・信用毀損

大宇宙は 地方裁判所に無事実理由の申立書を提出した。大宇宙の行為は **【民事訴訟法第二条（裁判所及び当事者の責務）】**、**【労働契約法第十六条】**、**【刑法第二百三十条（名誉毀損）】**、**【刑法第二百三十三条（信用毀損及び業務妨害）】**を違反することは事実になった。

**【原審】**の「即時抗告状」の「第3 即時抗告の理由」の3

## 第2 地方裁判官の不公正裁判の違法性

地方裁判官の不公正・不公平の決定は **【憲法第十一条「人権は、侵すことのできない永久の権利だ。」】**、**【憲法第十四条「法の下に平等で差別されない」】**、**【憲法第七十六条「裁判官は、良心に従ひ職権を行ひ。」】**、**【民事訴訟法第二条（裁判所及び当事者の責務）】**と抵触になった。

**【原審】**の「特別抗告申立書」の「第2 申立ての理由」の1

**【原審】**「即時抗告状」の第3の1

**【甲1-1、甲1-2】**

## 第3 警察官の電話威嚇の違法性

2021 年 9 月から 何回 大崎警察署へ 違法者の刑事告訴状を提出したがすべて 受理しなかった。大崎警察署の生活安全課の警察官の電話で「逮捕など」（2021 年 9 月 17 日（金）朝 10 時）を脅かす、その警部の対面威嚇（2021 年 10 月 20 日）など行為は日本国の法律により厳罰に処すること。

**【原審】**の「特別抗告申立書」の「第2 申立ての理由」の4

### 結論

上記のとおりであるから、地方裁判所の**原審**保全事件の決定は、法律の根拠がない、**大宇宙**の解雇の無効と復職を要求する、職権濫用の公務員の処分を請求する。

### 附 属 書 類

- |   |         |       |
|---|---------|-------|
| 1 | 訴状副本    | 1 通   |
| 2 | 証拠説明書   | 1 通   |
| 3 | 甲号証（写し） | 各 1 通 |